

マンゴーの森づくり事業 終結のご報告

ケニアでは国土の約 8 割が年間総雨量が 300 ミリ以下の半乾燥地域に該当し、その利用割合は牧草地が 8 割、農地はわずか 1 割。

近年、世界各地で起きている異常気象はアフリカにも大きな影響を及ぼし、雨季の降雨量は年々減少傾向にあります。この降雨量不足を補うための灌がい施設が十分でない地域が多く、雨の水だけが頼りの農耕民にとっては、水不足が収穫不足に直結してしまい、水不足が深刻な時は、畑を作ることを、最初から諦めてしまう場合もあります。



【開墾した、主食のとうもろこし畑】

そこで ACEF では、2006 年から荒れ地のマキマの地でも有効に野菜を育てられるよう、有機肥料で土地改良をし、畑を開墾。エイズで親を亡くした孤児たちの施設ジャンプ & スマイルセンターの自立運営を目指し、2009 年マンゴーを出荷して収益につなげる「マンゴーの森づくり事業」を発足しました。



マンゴーの森づくり事業の3つの目的

1、孤児院の子ども達の食糧事情の充実

マンゴーの木と木の間にも豆類と一緒に植えるアグロフォレスト農法を導入。

2、地域住民の雇用を促進させる雇用支援

地域住民の 8 割以上が牧畜か農耕民であるこの地区で、マンゴーの森造成事業に参加してもらうことによる地域住民を雇用促進と、地域住民への有機農法普及にも貢献。

3、孤児院が自立運営のための教育支援

マンゴーの森を作り、その収益による学資支援、教育支援、また将来的には孤児院の運営が自立できるように支援。

経過報告: 3万本のマンゴーの木を植樹を目標に、食糧充実、雇用促進、自立支援を目指し、広大な土地へ給水に、まず近くの川から灯油で揚水するポンプを導入。ポンプを子どもがいたずらしたり、盗難に遭わないようポンプ小屋の中に設置。川から揚水した水は地中に埋めたパイプを通して、マキマの敷地内まで引き込み、一旦タンクに貯め、バケツで水やり。

しかし、皆さまの夢を託されたマンゴーの森を枯らさないよう努力するも、広大な土地では手作業では間に合わないため、立ち枯れや、発育不良のものが続出。2 割程度が立ち枯れし、植樹から 3 年経っても、1つの木に数えるほどしか結実しなかった。

そこで、ナイロビから専門家を 2 度招致し調査。肥料、薬などの指導を受け試行錯誤しましたが、結実する木々は一部のみ。水不足が原因の一部であるだろうとの意見を受け、有志の支援で井戸掘削、太陽光パネルの揚水ポンプも設置し、水量増加策を講じました。

これで準備万端だろうとの期待も、この年の雨季に一定量の雨が降らない、極端な日照不足、冷夏、干ばつなど次々と想定外の異常気象が起きました。結果、この事業実施した 10 年間に 3 度も大きな干ばつに見舞われ、井戸も枯渇し、マキマだけでなく、ケニア国内でも作物が育たず、家畜も人間も餓死する人達が出るような事態も発生しました。

ただ、2014～2015年は実の量が多くなり、ジャンプ&スマイルの子ども達や近隣小学校へも配れるようになり、安堵していたところ、実ったマンゴーを近隣住民や子ども達、野ザルなどが盗って行ってしまふ。近隣住民は延べて貧しい家庭が多く、繰り返す干ばつや異常気象で慢性的に不作が続いていたところに、隣地に実ったマンゴーがあれば、取って食べたい、家族に持って帰ってやりたいと思うのが人情で、到底止め立てし、攻めることはできませんでした。



【シーズン真っ盛りでも、実は少ない 2013年】

このような背景もあり、子ども達が食べるほどの収穫はありますが、市場に出荷し収益が得られないこと。水やりなどの人件費支出ばかりが増加し収入がないこと。繰り返す異常気象に3分の2以上のマンゴーの木が枯れてしまったことなどから、2019年7月末をもってマンゴーの森づくり事業は終結し、マンゴー植樹の寄付金の受付を終了する決断をしました。

本来であればもっと早い段階で再考し、決断しなければならなかったのですが、皆さまの真実こもったマンゴーの森を、どうにか継続させようと塩尻所長も現地スタッフも手を尽くし協議を重ねた結果、一大要因は世界的な異常気象であり、これに対処する手立てがないため、このような苦渋の決断となりました。

雇用支援に大きく貢献

しかし、元来この地域では現金収入を得る手段が非常に乏しい中、この事業実施中の10年間で雇用された地域住民は、マンゴーの森づくり(苗木の水やり、苗木の穴掘り、草取り、見回りなど)だけでも延べ5,600人を超え、同じくマキマで行った農業プロジェクト(有機肥料による土地改良、有機農業の促進、苗木センターの設立、乾燥地に強いムカウ種の普及事業など)で雇用した地域住民は、10,000人を優に超え、皆さまからの真実のご寄付は、雇用促進の面でこの地区に多大な貢献をしました。

医療事業へ発展

またマキマ地区は、中心部から半径10キロ圏内には医療施設がなかったため、ジャンプ&スマイル設立の際、地域住民の強い要望で、エンブ病院の分院として、マキマクリニックを開設しました。

年間来院者数は4千人を超えており、年に1度実施される無料診療の日には、朝7時には長蛇の列ができ、夜明け前から歩いてきたという人も珍しくない盛況ぶり。孤児院の子ども達の体調管理だけではなく、地域にとって今ではなくてはならない医療機関となっています。



【地域の医療を一手に担うマキマ分院】

振込先:

郵便局から(窓口・ATM・ゆうちょダイレクト):

ゆうちょ銀行 振替口座 番号:00930-8-66355 アフリカ児童教育基金

銀行から: ゆうちょ銀行 ○九九(ゼロキュウキュウ)店 当座0066355 アフリカ児童教育基金

*銀行からは氏名と金額しか確認できません。

領収書が必要な方は、住所、氏名を 電話かメールでお知らせください。

高校生学資支援に
ご協力お願いします



発行人: 〒632-0063 奈良県天理市西長柄町 265-4 (特非)アフリカ児童教育基金の会 ACEF 代表 小椋 とも代
TEL&FAX: 0743-25-6935 電子メール: headquarters@acef-jpn.com